

香川大学産婦人科専門研修プログラム

0. 香川大学産婦人科専門研修プログラムの特色と勧め
1. 専門研修プログラムの理念・目的・到達目標
2. 専門知識/技能の習得計画
3. リサーチマインドの養成および学術活動に関する研修計画
4. コアコンピテンシーの研修計画
5. 地域医療に関する研修計画
6. 専攻医研修ローテーション(モデル) (年度毎の研修計画)
7. 専攻医の評価時期と方法(知識、技能、態度に及ぶもの)
8. 専門研修管理委員会の運営計画
9. 専門研修指導医の研修計画
10. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)
11. 専門研修プログラムの改善方法
12. 専攻医の採用と登録

0. 香川大学産婦人科専門研修プログラムの特色と勧め(1)

近年の少子高齢化に伴い、婦人科腫瘍の増加、不妊治療の重要性、ハイリスク妊娠の増加に伴うより安全な産科医療の必要性が課題となり、産科婦人科の社会的役割はますます重要になっています。そのために優秀な産科婦人科産科専門医を育成することは、我々産科婦人科専門医のみならず医学会全体の一つの大きなテーマでもあります。そういう意味において、医育機関において次世代を担う専門医の育成は最も重要な課題です。専門医研修は全国の医療機関で可能ですが、研修を一つの教育としてとらえた場合、大学の医学部附属病院のスタッフは産科婦人科診療のみならず、教育を一つの主眼としておりますので「教える」ということについて慣れております。また大学には各分野の臨床・研究に関する専門家が勤務しており、国際学会や全国学会に積極的に参加することでたえず新しい情報を取り入れ、それぞれの診療部門の最先端の知識・診断・治療の進め方を学ぶことができます。また、医学部附属病院では学生の教育を担当するため、香川大学では専門研修医も学生の臨床教育に直接携わるシステムをとっております。そこで学生に教えることにより自分自身の知識・技能を確認することができます。

基幹施設である香川大学医学部周産期学婦人科学(周産期科女性診療科)は、一つの特色として1978年の開学時に、周産期学と婦人科学の2講座で始まりましたので、周産期部門と婦人科腫瘍部門には優秀なスタッフが揃っています。特に周産期部門は全国の国立病院に先駆けて総合周産期母子医療センターを開設し、鉗子分娩や骨盤位経膈分娩を積極的に行い高度な分娩技術の習得も可能としています。また、超音波指導医4名を含む6名の超音波専門医がスタッフにいるため、充実した超音波診療の研修が可能となっております。

0. 香川大学産婦人科専門研修プログラムの特色と勧め(2)

当プログラムにおける地域医療研修は充実しており、高松市内の3病院(高松赤十字病院・香川県立中央病院・屋島総合病院)の他、小豆郡(小豆島)唯一の産科医療施設である小豆島中央病院での研修を予定しております。小豆島は、高松からフェリーで1時間(高速艇で35~45分)の瀬戸内海に位置する島です。観光で有名な風光明媚な島ですが、約3万人の人口があり、飲食店やマーケットも充実しています。小豆島中央病院においてはベテランの指導医のもとで、安心して離島における産科婦人科医療を実践する事が可能となっております。

香川大学は地方大学であるため、周産期領域では地域における正常分娩から総合周産期母子医療センターで取り扱うハイリスク妊娠まで、婦人科腫瘍領域では良性腫瘍手術から集学的治療を要する悪性腫瘍まで広く診療を行っております。このことは産婦人科専門研修として理想的な環境であると言えます。当プログラムにおける研修は、産婦人科専門医の取得はもちろん、以後の周産期新生児居学会・日本超音波医学会・日本婦人科腫瘍学会・日本女性医学会などのサブスペシャリティの専門医取得まで視野に入れて実施しています。

女性医師の場合、大学では研修時もしくは研修後の妊娠・出産・育児と研修が両立できる様に個々の事情に応じたバックアップ体制を整えており、結婚や夫の転勤等で他府県に異動の時も全面的な支援をお約束いたします。

教室のホームページをご参考にさせていただきますが、それだけでは教室の雰囲気は伝えかねますので、可能であれば一度見学にきていただき、実際に初期臨床研修医や産科婦人科専門研修医が充実した研修を行っているところを感じていただければ、よりよくご理解できるものと考えます。

1. 香川大学産婦人科研修プログラムについて

産婦人科専門医は、生殖・内分泌領域、婦人科腫瘍領域、周産期領域、女性のヘルスケア領域の4領域にわたり、十分な知識・技能を持ったうえで、以下のことが求められています。

- ・標準的な医療を提供する。
- ・患者から信頼される。
- ・女性を生涯にわたってサポートする。
- ・産婦人科医療の水準を高める。
- ・疾病の予防に努める。
- ・地域医療を守る。

香川大学産婦人科は、関連病院とともに地域医療を守りながら多数の産婦人科医師を育んできました。「香川大学産婦人科研修プログラム」は、この歴史を継承しつつ、2018年度からの新専門医制度に合わせた形で産婦人科専門医を育成するためのプログラムとなっており、以下の特徴を持ちます。

- ・高度医療から地域医療まで幅広く研修を行える研修施設群。
- ・サブスペシャルティ領域までカバーする、豊富で質の高い指導医。
- ・専任指導医による充実した僻地医療研修。
- ・OB会による、診療・教育・研究への強力なバックアップ。
- ・質の高い臨床研究および基礎研究の指導。
- ・出身大学に関係なく、個々人にあわせて、きめ細やかに研修コースを配慮。
- ・女性医師も継続して働けるように、労働環境を十分配慮。

2. 専門知識/技能の習得計画(1)

日本産科婦人科学会中央専門医制度委員会により、習得すべき専門知識/技能が定められています(資料1「2017年度以降に研修を始める専攻医のための研修カリキュラム」および「専門研修プログラム整備基準(2020年2月21日改訂版)」修了要件の整備基準項目53参照)。

* 基幹施設である香川大学医学部附属病院産婦人科には専用のカンファレンス室および専攻医の控え室があり、多数の最新の図書を保管しています。そしてインターネットにより国内外のほとんどの論文がフルテキストで入手可能です。

毎週火・木・金が手術日です。その他、帝王切開術を中心に手術日以外にも臨時枠を利用した手術を数多く実施しています。

月曜日15時から手術症例を中心に放射線診断科Dr.を含めたカンファレンスを行い、病態・診断・治療計画作成の理論を学びます。他科との合同カンファレンスとして、毎週月曜日16時30分から産科症例および新生児症例に関する産科婦人科・新生児科・助産師および看護スタッフ・ソーシャルワーカーを交えた母子センターミーティング、隔週火曜日17時から放射線治療科との放射線治療カンファレンス、毎月1回(月曜日)18時から病理部・放射線診断科を交えた病理カンファレンスを実施しています。

診療体制は、産科グループと婦人科グループに別れて実施しており、毎週それぞれのグループカンファレンスで治療方針の確認を行います。

毎週金曜日は、8時15分から抄読会および症例検討会を行ったのち、教授回診を実施しています。

2. 専門知識/技能の習得計画(2)

日本産科婦人科学会、中国四国連合産科婦人科学会、香川産婦人科学会、日本周産期新生児医学会、日本超音波医学会、婦人科腫瘍学会などの学術集会に専攻医が積極的に参加し、領域講習受講や発表を通じて、専門医として必要な総合的かつ最新の知識と技能の修得や、スライドの作り方、データの示し方について学べるようにしています。

* 当プログラムでは、殆どの連携施設において1週間に1度の診療科におけるカンファレンスおよび1ヶ月に1度の勉強会あるいは抄読会が行われています。

* 当プログラムで主に参加する国内の学会は以下の通りです

日本産科婦人科学会

中国四国連合産科婦人科学会

香川産婦人科学会

日本周産期新生児医学会

日本母体胎児医学会

日本女性医学会

日本超音波医学会

日本婦人科腫瘍学会

3. リサーチマインドの養成・学術活動に関する研修計画

研究マインドの育成は、診療技能の向上に役立ちます。診療の中で生まれた疑問を研究に結びつけて公に発表するためには、日常的に標準医療を意識した診療を行い、かつその標準医療の限界を知っておくことが必須です。修了要件(整備基準項目53)には学会・研究会での1回の発表および、論文1編の発表が含まれています。

広く認められる質の高い研究を行うためには、良い着眼点に加えて、正しいデータ解析が必要です。そして学会発表のためには、データの示し方、プレゼンの方法を習得する必要があります。さらに論文執筆にも一定のルールがあります。当プログラムにはそれを経験してきた指導医がたくさん在籍し、適切な指導を受けることができます。

当プログラムでは、英語論文に触れることが最新の専門知識を取得するために必須であると考えており、可能であれば積極的に英文での発表を目指します。原則として、基幹施設である香川大学医学部附属病院における研修期間中に、日本産科婦人科学会等の学会発表および論文執筆を目指し、さらに連携施設在籍中も積極的に学会発表および論文執筆を目指します。

4. コアコンピテンシーの研修計画

産婦人科専門医となるにあたり、(産婦人科領域の専門的診療能力に加え、) 医師として必要な基本的診療能力(コアコンピテンシー)を習得することも重要です。

医療倫理、医療安全、感染対策の講習会を各1単位(60分)ずつ受講することが修了要件(整備基準項目53)に含まれています。

香川大学医学部病院では、医療安全、感染対策に関する講習会が定期的に行われております。また、医療倫理に関する講習会も定期的に行われています。したがって、香川大学医学部病院での研修期間中に、必ずそれらの講習会を受講することが義務としています。さらにほとんどの連携施設でも、それらの講習会が行われており、各施設での研修期間中に参加できます。

5. 地域医療に関する研修計画

当プログラムの研修施設群の中で、地域医療を経験できる施設は以下の通りです。いずれも地域の中核的病院であり、症例数も豊富です。

基幹施設：香川大学医学部附属病院

連携施設：高松赤十字病院、香川県立中央病院、屋島総合病院、小豆島中央病院
四国こどもとおとなの医療センター、厚仁病院、四国がんセンター
松山赤十字病院、国立循環器病センター、りんくう総合医療センター
札幌東豊病院

これらの病院は多くが産婦人科医が不足している地域にあり、地域の強い要望と信頼のもとに、香川大産婦人科から医師を派遣し、地域医療を高い水準で守ってきました。当プログラムの専攻医は、これらの病院のいずれかで少なくとも一度は研修を行い、外来診療、夜間当直、救急診療、病診連携、病病連携などを通じて地域医療を経験します。僻地医療研修は主に小豆島中央病院での研修を行います。

いずれの連携施設にも指導医が在籍し、研修体制は整っています。

※ なお、プログラム研修期間中に施設状況や所属指導医の変更により上記の施設認定区分は変更となる可能性があります。

詳細は統括責任者に随時ご確認ください。

6. 専攻医研修ローテーション

*年度毎の標準的な研修計画

- ・1年目;内診、直腸診、経腔・腹部超音波検査、胎児心拍モニタリングを正しく行える。上級医の指導のもとで正常分娩の取り扱い、通常の帝王切開、子宮内容除去術、子宮付属器摘出術ができる。婦人科の病理および画像を自分で評価できる。
- ・2年目;妊婦健診および婦人科の一般外来ができる。正常および異常な妊娠・分娩経過を判別し、問題のある症例については上級医に確実に相談できる。正常分娩を一人で取り扱える。上級医の指導のもとで通常の帝王切開、腹腔鏡下手術、腹式単純子宮全摘術ができる。上級医の指導のもとで患者・家族からのICができる。
- ・3年目;帝王切開の適応を一人で判断できる。通常の帝王切開であれば同学年の専攻医と一緒にできる。上級医の指導のもとで前置胎盤症例など特殊な症例の帝王切開ができる。上級医の指導のもとで癒着があるなどやや困難な症例であっても、腹式単純子宮全摘術ができる。悪性手術の手技を理解して助手ができる。一人で患者・家族からのICができる。

* 研修ローテーション

専門研修の1年目は、原則として多様な症例を経験できる〇〇大病院で研修を行い、2年目以後に連携施設で研修を行います。当プログラムに属する連携施設は、いずれも〇〇大病院に匹敵する豊富な症例数および指導医による研修体制を有する地域の中核病院で、婦人科手術件数の多い施設や分娩数の多い施設など、それぞれ特徴があります。結婚・妊娠・出産など、専攻医一人一人の事情にも対応してローテーションを決めていきます。なお地域医療を経験できる施設で少なくとも1度は研修を行う必要があります。

7. 専攻医の評価時期と方法

* 到達度評価

研修中に自己の成長を知り、研修の進め方を見直すためのものです。当プログラムでは、少なくとも12か月に1度は専攻医が研修目標の達成度および態度および技能について、Web上で日本産科婦人科学会が提供する産婦人科研修管理システムに記録し、指導医がチェックします。態度についての評価は、自己評価に加えて、指導医による評価（指導医あるいは施設毎の責任者により聴取された看護師長などの他職種による評価を含む）がなされます。なおこれらの評価は、施設を異動する時にも行います。それらの内容は、プログラム管理委員会に報告され、専攻医の研修の進め方を決める上で重要な資料となります。

* 総括的评价

専門医認定申請年(3年目あるいはそれ以後)の3月末時点での研修記録および評価に基づき、研修修了を判定するためのものです(修了要件は整備基準項目53)。自己・指導医による評価に加えて、手術・手技については各施設の産婦人科の指導責任者が技能を確認します。他職種評価として看護師長などの医師以外のメディカルスタッフ1名以上から評価も受けるようにします。

専攻医は専門医認定申請年の4月末までに研修プログラム管理委員会に修了認定の申請を行います。研修プログラム管理委員会は5月末までに修了判定を行い、研修証明書を専攻医に送付します。そして専攻医は日本専門医機構に専門医認定試験受験の申請を行います。

8. 専門研修管理委員会の運営計画

当プログラム管理委員会は、基幹施設の指導医6名と連携施設担当者の計11名で構成されています。プログラム管理委員会は、毎年12月に委員会会議を開催し、さらに通信での会議も行いながら、専攻医および研修プログラムの管理と研修プログラムの改良を行います。

主な議題は以下の通りです。

- ・専攻医ごとの専門研修の進め方。到達度評価・総括的評価のチェック、修了判定。
- ・翌年度の専門研修プログラム応募者の採否決定。
- ・連携施設の前年度診療実績等に基づく、次年度の専攻医受け入れ数の決定。
- ・専攻医指導施設の評価内容の公表および検討。
- ・研修プログラムに対する評価や、サイトビジットの結果に基づく、研修プログラム改良に向けた検討。

9. 専門研修指導医の研修計画

日本産科婦人科学会が主催する、あるいは日本産科婦人科学会の承認のもとで連合産科婦人科学会などが主催する産婦人科指導医講習会が行われます。そこでは、産婦人科医師教育のあり方について講習が行われます。指導医講習会の受講は、指導医認定や更新のために必須となっています。

さらに、専攻医の教育は研修医の教育と共通するところが多く、香川大学に在籍している指導医のほとんどが、「医師の臨床研修に係る指導医講習会」を受講し、医師教育のあり方について学んで、医師臨床研修指導医の認定を受けています。

10. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

当プログラムの研修施設群は、「産婦人科勤務医の勤務条件改善のための提言」(平成25年4月、日本産科婦人科学会)に従い、「勤務医の労務管理に関する分析・改善ツール」(日本医師会)等を用いて、専攻医の労働環境改善に努めるようにしています。

専攻医の勤務時間、休日、当直、給与などの勤務条件については、労働基準法を遵守し、各施設の労使協定に従っています。さらに、専攻医の心身の健康維持への配慮、当直業務と夜間診療業務の区別とそれぞれに対応した適切な対価を支払うこと、バックアップ体制、適切な休養などについて、勤務開始の時点で説明を受けます。

総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は当プログラム研修管理委員会に報告されますが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれます。

近年、新たに産婦人科医になる医師は女性が6割以上を占めており、産婦人科の医療体制を維持するためには、女性医師が妊娠、出産をしながらも、仕事を継続できる体制作りが必須となっています。日本社会全体で見ると、現在、女性の社会進出は先進諸国と比べて圧倒的に立ち遅れています。わたしたちは、産婦人科が日本社会を先導する形で女性医師が仕事を続けられるよう体制を整えていくべきであると考えています。そしてこれは女性医師だけの問題ではなく、男性医師も考えるべき問題でもあります。

当プログラムでは、ワークライフバランスを重視し、夜間・病児を含む保育園の整備、時短勤務、育児休業後のリハビリ勤務など、誰もが無理なく希望通りに働ける体制作りを目指しています。

11. 専門研修プログラムの改善方法

総括的評価を行う際、専攻医は指導医、施設、研修プログラムに対する評価も行います。また指導医も施設、研修プログラムに対する評価を行います。その内容は当プログラム管理委員会で公表され、研修プログラム改善に役立てます。そして必要な場合は、施設の実地調査および指導を行います。また評価に基づいて何をどのように改善したかを記録し、毎年日本産科婦人科学会中央専門医制度委員会に報告します。

さらに、研修プログラムは日本専門医機構からのサイトビジットを受け入れます。その評価を当プログラム管理委員会で報告し、プログラムの改良を行います。研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本産科婦人科学会中央専門医制度委員会に報告します。

専攻医や指導医が専攻医指導施設や専門研修プログラムに大きな問題があると考えた場合、当プログラム管理委員会を介さずに、いつでも直接、下記の連絡先から日本産科婦人科学会中央専門医制度委員会に訴えることができます。この内容には、パワーハラスメントなどの人権問題が含まれます。

電話番号： 03-5524-6900

e-mailアドレス： nissanfu@jsog.or.jp

住所：〒 104-0031 東京都中央区京橋3丁目6-18 東京建物京橋ビル 4階

12. 専攻医の採用と登録

(問い合わせ先)

住所: 香川大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター

TEL: 087-891-2009

FAX: 087-891-5665

E-mail: sotsugo@med.kagawa-u.ac.jp

研修開始届け

研修を開始した専攻医は各年度の5月31日までに、専攻医の履歴書、専攻医の初期研修修了証を産婦人科研修管理システムにWeb上で登録する。

産婦人科専攻医研修を開始するためには、①医師臨床研修(初期研修)修了後であること、②日本産科婦人科学会へ入会していること、③専攻医研修管理システム使用料を入金していること、の3点が必要である。

何らかの理由で手続きが遅れる場合やその他相談事項は、当プログラム統括責任者に連絡してください。

* 香川大学産婦人科研修プログラム統括責任者: 金西賢治 (周産期科女性診療科教授)

E-mail: kane@med.kagawa-u.ac.jp